

第13期中央教育審議会初等中等 教育分科会教育課程部会 特別活動部会（WG）

恒吉僚子

文京学院大学副学長、東京大学名誉教授

教育課程企画特別部会 論点整理より

https://www.mext.go.jp/content/20250925-mxt_kyoiku02-000045057_01.pdf

学習指導要領改訂に向けた検討体制

別紙

中央教育審議会教育課程部会

教育課程企画特別部会

総則・評価特別部会

義務教育検討チーム

高等学校検討チーム

幼児教育WG

特別支援教育WG

産業教育WG

国語WG

外国語WG

社会・地理歴史・公民WG

算数・数学WG

理科WG

体育・保健体育、健康、安全WG

芸術WG

家庭WG

生活、総合的な学習・探究の時間WG

特別活動WG

道徳WG

情報・技術WG

不登校児童生徒に係る特別的教育課程WG

特定分野に特異な才能のある児童生徒に係る特別的教育課程WG

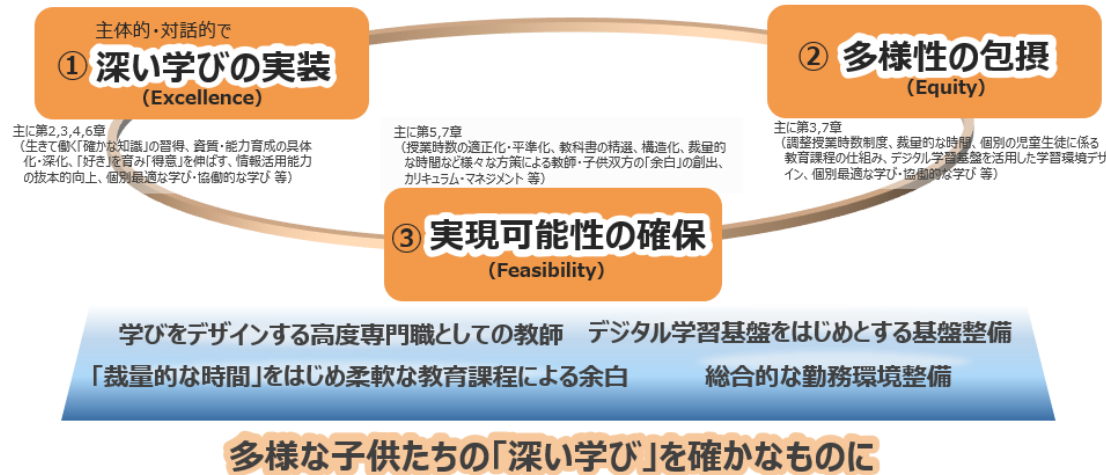
※今後検討体制について変更の必要が生じた場合は、構成について見直しを行う。

特別活動の役割

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

補足イメージ1-①



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

5

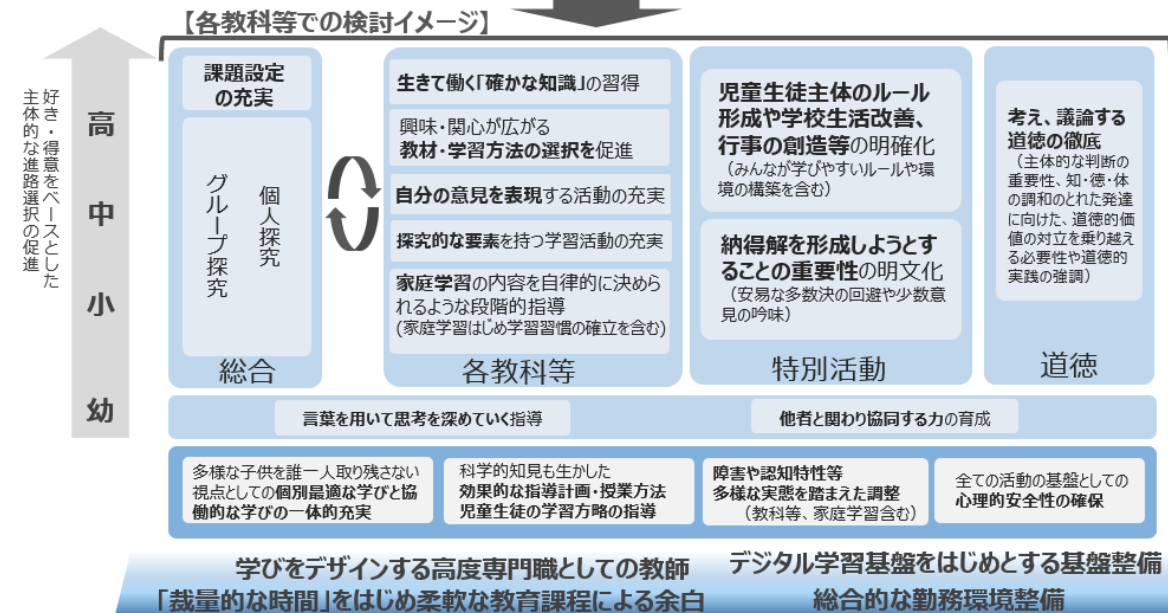
「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

自らの人生を舵取りする力と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成 (今後の検討イメージ)

補足イメージ1-②

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる



※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない

6

転換する世界の教育モデル

日本の特別活動はTokkatsuとして今、国際的に注目されつつある。非認知的能力を再評価し、子ども全体を育てよう（認知的能力だけでなく）という国際的潮流に沿っている。しかし、一時代前、それは逆であった。

* **非認知領域、教科以外の領域**は「とらえどころがない」「数値化できない」⇒

「うさんくさい」＋学校が干渉すべき領域でない（家庭とか地域とかの領域）

* 脱宗教、脱共同体、理性と合理的な個人、科学、資本主義・・・を目指した近代西欧の論理からすると、**日本の特別活動を支える論理の多く、認知とそれ以外が未分化、「望ましい」とされる人間形成の方向性を学校教育が目指す・・・等は前近代的、おくれたものに見えてきた**

⇒ **今、この近代西欧的論理が行き詰まりが見えている⇒修正・代替モデルの必要性**

* 経済格差の拡大、社会の分断、暴力、規範規律の崩壊、感情の統制ができない、個人主義的行動の行き過ぎ等の行き詰まりが議論される中で、非認知的能力の大切さ、IQだけでなく感情面の育成、社会性の大切さ、子ども全体を育てる大切さ（whole child, total child, holistic, humanistic, etc.）、コロナ禍が拍車をかけた対人関係の場としての学校等が各国で唱えられるようになっている。

* **共感を重視し、話し合いによる理解に基づく協働的な日本の行動原理、教育が再評価。人間形成的、価値教育的な色彩が強い特別活動、Tokkatsuが注目されている（Tokkatsuの名称が使われているかは別）。**

日本の特別活動に期待されること 国際的なモデル消費国からモデル生成国へ

* 他者との関係を方向付ける規範、個人主義的、脱宗教、人間中心、自己実現中心の論理の行き詰まり

日本：共感、相互扶助、協同的・協働的、共同体性、自己犠牲

かつてはその多くが「個」が弱い、前近代的だとされた特徴が見直される

* 制御されない資本主義、経済格差拡大、大量消費の行き詰まり

* アイデンティティの分断（人種、民族、ジェンダー）

日本：集合的アイデンティティ、地域、学校等の単位

ナショナリズム、村落共同体の持つ統制的性格、弊害を乗り越えながら開けた共感関係を築けるのか

* AI、ICT新時代

日本：対人関係の充実等、いかにAI時代でも豊かな人間性を実現するかを示せるか

日本の教育の弊害や弱点を理解しながら、いかに日本の教育の強さをいかした解決ができるか
人間形成的な観点からすると、特別活動（Tokkatsu）はその中核にある



論点整理から：多文化共生論理の転換

西欧各国で個人主義的な解釈等の従来の論理だけでは多文化共生の実現に行き詰まり感が出ている...日本が自己の社会・教育の弊害や弱さをその強さで乗り越えながら、共感・協働的な論理の中から多文化共生のモデルを提示できるのか



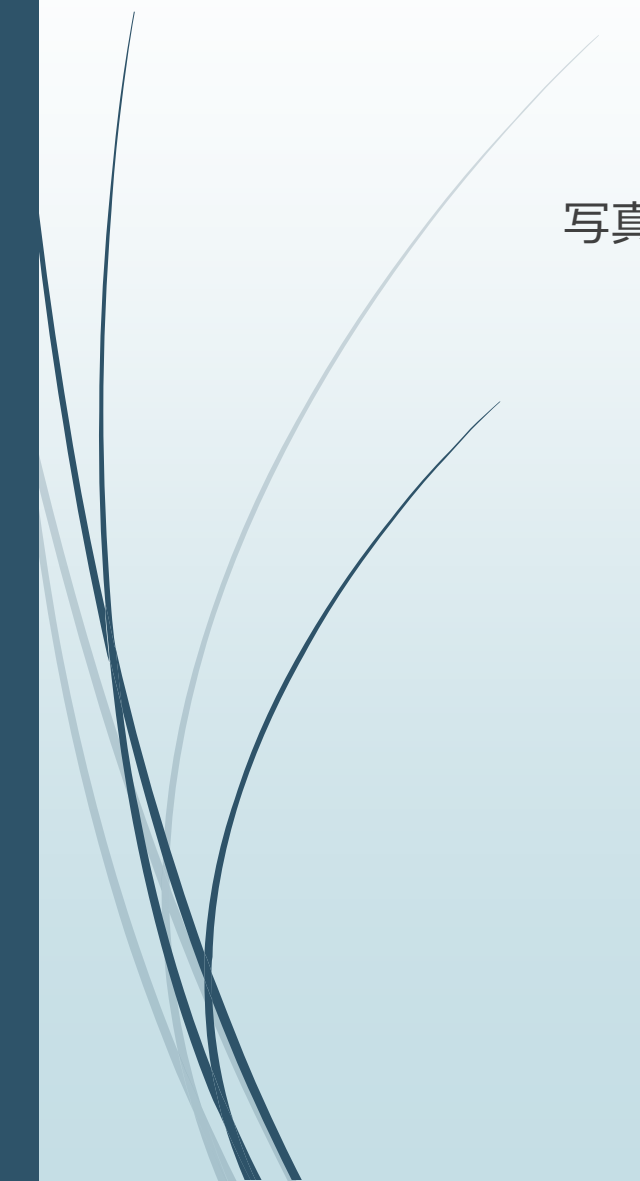
論点整理から： AI時代の体験、対面の役割を問う

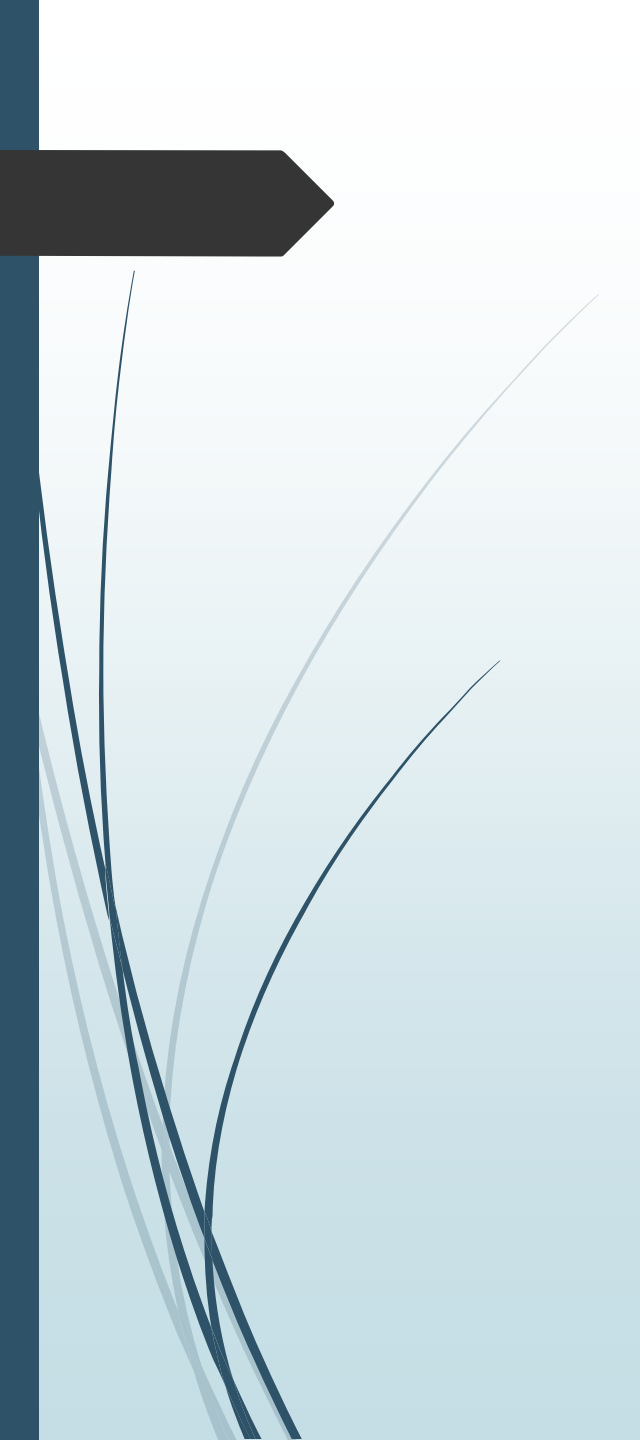
AIの時代において、AIを用いながらも豊かな対人関係とそれに向けた資質能力を築くようなモデルを提示できるのか、これから期待されている日本の教育が担う人格形成的役割の中核に特別活動Tokkatsuはある

国際社会でずっと優位であった近代（西欧）の論理による教育モデルの行き詰まりの中で、国際社会で日本は、モデル生成国として独自の貢献をすることが今までで一番求められている。



写真は削除してあります。





ありがとうございました